

## 第3学年3組 算数科学習指導案 (単純2分割少人数指導)

平成19年5月29日(火) 第4校時  
授業者 教諭 (学習室1)

1 単元名 かくれた数はいくつ(1)

2 単元の目標

- ・ 絵や図や線分図を使って、意欲的に問題解決にあたろうとする。(関心・意欲・態度)
- ・ 順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題の解決の方法が説明できる。  
(数学的な考え方)
- ・ 順思考と逆思考を組み合わせた3要素2段階の問題を解くことができる。(表現・処理)
- ・ 線分図による数量の関係の表し方がわかる。(知識・理解)

3 単元について

本単元では、3要素2段階の順思考と逆思考を組み合わせた課題を扱う。2要素1段階の課題については、2学年で加法・減法の逆思考を学習している。ここは、既習事項を組み合わせ、要素も段階も増えた今までの応用であり、論理的な思考を養うのに適した単元である。この単元では立式をすることよりも、課題から自分なりの絵や図や線分図をかき、それを使って課題を解くことができるようにすることに重きをおきたい。小学校の間に数量の依存関係を見抜く力をつけることは、中学校での方程式の学習がスムーズにつながっていくと考える。

4 児童について

算数の授業は、4月から全ての単元において、少人数指導で進めてきている。

算数の授業に対して意欲的に取り組む児童が多い。特に具体物を使ったり、ゲーム的な要素を取り入れたりする学習にはどの児童も意欲的に取り組む。しかし、発表となると自分なりの考えはもっていても、声が小さくなったり自信をもって答えられなかったりする児童がいる。全体的に計算力はあるが、文章問題では個人差が大きく、話し合いに積極的に参加する児童が限られている。それは、問題を読みとることが苦手で、筋道を立てて物事を考えていくことが難しいからではないかと考えられる。

5 指導について

3年生になって初めての文章題であり、児童がつまづきやすい、課題場面の把握では、さし絵などを用いてイメージをつかませたい。また、問題解決にあたっては自分で絵や図や線分図をかいて考えたり、図と関連づけながら式の意味を説明したりする活動を大切にしたい。その際、発表ボードに自分の考えをまとめたり、それを見せながら説明したりすることで、考える力や分かりやすく伝える力を育てたい。

自力解決が難しい児童には、ヒントカードや半具体物などを用意したり、個別指導をする場を設けたい。

少人数であることを生かしてできる限り個に関わり、それぞれの児童の思考過程での支援を行っていききたい。

6 指導計画(3時間配当)

時	学習内容	ねらい	関	考	表	知	評価規準
1 本 時	加法・乗法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題を解く。	自分なりの絵や図や線分図をかき、それを使って問題を解くことができる。		○	◎	○	自分なりの絵や図や線分図をかき、それを使って問題を解くことができる。
2	加法の順思考と加法減法の逆思考を組み合わせた問題を解く。	絵や図や線分図を使い、意欲的に問題を解くことができる。	○	◎	○		絵や図や線分図を使って意欲的に問題を解くことができる。
3	ふくしゅう	既習事項の復習			○	○	

7 本時の目標

加法・乗法の順思考と減法の逆思考を組み合わせた問題から自分なりの絵や図や線分図をかき、それを使って問題を解くことができる。

8 準備物

場面図 鳩のさし絵 栗のさし絵 発表ボード ヒントカード おはじき ワークシート

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支 援 (・) と 評 価 (☆)
<p>○5分間ドリルをする。 ○本時の課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>広場にはとが何ばかいました。そのうち5わとんでいきました。また、8わとんでいったので、のこりは17わになりました。はじめ、はとは何ばかいましたか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面のさし絵を見せて興味づけをする。</li> <li>・問題文からイメージしたことを話し合い、問いの文を考えさせる。 分かれている大事な言葉、数字は？ お尋ねの文は？</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>絵や図をかいて、はじめの数をもとめましょう。</p> </div>	
<p>○絵や図をかいて問題を解く。 ①とんでいった数を順にもどして <math>17 + 8 = 25</math> <math>25 + 5 = 30</math></p> <p>②とんでいった数をまとめて <math>5 + 8 = 13</math> <math>13 + 17 = 30</math></p> <p>○友達と話し合う。</p> <p>○考えを発表し合う。 ・おはじきをかいていくと大変だね。 ・テープや線でかくと、分かりやすいね。 ・線分図はすっきりしているね。</p> <p>○線分図について知る。</p> <p>○適用問題をする。</p> <p>○学習のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さし絵などと対応させ、数量の関係を絵や図に表していく。</li> <li>・自力解決が難しい児童には、ヒントカードや半具体物を用意する。</li> <li>・一つの考え方で解決できたら、別の考え方ができないか考えるよう助言する。</li> <li>・答えを求めたら、答えが合っているかどうか図や問題に戻して確かめるよう助言する。</li> <li>・できた人から発表ボードに自分の考えを書かせ、説明できるようにする。</li> <li>☆自分なりの方法で問題を絵や図や線分図にし、解くことができたか。 (ワークシート・発表ボード・・・考・表)</li> <li>・隣同士のペアで話し合ったあとに、全体へ広げる。</li> <li>・自分の考えと比べながら聞くように促す。</li> <li>・それぞれのよさが分かるように、考え方や表し方別に発表ボードを貼っていく。</li> <li>・友達が発表した絵や図を比べることで、どれも線分図につながることや簡潔で演算決定がしやすい線分図のよさに気づかせたい。</li> <li>・線分図のかき方をまとめる。</li> <li>☆線分図のよさが分かったか。 (観察・・・知)</li> <li>・自力解決できない子には、線分図を与え、部分の数値を確かめさせる。</li> <li>☆線分図をかいて、答えの確かめまでできたか。 (ワークシート・・・考・表)</li> <li>・次時の予告をする。</li> </ul>